

ゆきおんな

雪女

小泉八雲

むさし くに むら もさく みのきち い ふたり き はなし
武蔵の国のある村に茂作、巳之吉と云う二人の木こりがいた。この話の

じぶん もさく ろうじん かれ ねんきぼうこうにん
あった時分には、茂作は老人であった。そして、彼の年季奉公人であった

みのきち じゅうはち しょうねん まいにち かれら むら やくに りはな もり
巳之吉は、十八の少年であった。毎日、彼等は村から約二里離れた森へ

いっしょ で もり い みち こ おお かわ
一緒に出かけた。その森へ行く道に、越さねばならない大きな河がある。

わた ぶね わた ところ はし か
そして、渡し船がある。渡しのある処にたびたび、橋が架けられたが、

はし こうずい なが かわ あふ とき ふつう はし
その橋は洪水のあるたびごとに流された。河の溢れる時には、普通の橋で

きゅうりゅう ふせ こと もさく みのきち たいそうさむ ばん
は、その急流を防ぐ事はできない。茂作と巳之吉はある大層寒い晩、

かえ みち おおふぶき あ わた ば つ わた もり ふね かわ むか がわ
帰り途中で大吹雪に遇った。渡し場に着いた、渡し守は船を河の向う側に

のこ かえ こと わか およ ひ
残したままで、帰った事が分った。泳がれるような日ではなかった。

き わた もり こや ひなん ひなんじょう み こと
それで木こりは渡し守の小屋に避難した——避難処の見つかった事を

ぎょうこう おも こや ひばち ひ ばしょう
僥倖に思いながら。小屋には火鉢はなかった。火をたくべき場処も

まど いっぽうぐち にじょうじき こや もさく みのきち
なかった。窓のない一方口の、二畳敷の小屋であった。茂作と巳之吉は

と みの きゅうそく よこ はし
戸をしめて、蓑をきて、休息するために横になった。初めのうちは

さむ かん あらし や おも
さほど寒いとも感じなかった。そして、嵐はじきに止むと思った。

雪女

小泉八雲

武藏國的某村莊裡，住著兩個樵夫：茂作和巳之吉。在我們這個故事開始的時候，茂作已經老態龍鍾，而他的徒弟巳之吉則是個年僅十八歲的後生。每天，他們都一起到離村子二里遠的森林中伐木。途中，要經過一條寬廣的大河，只有一個渡口可供坐船過河。雖然在渡口的附近，也曾多次搭架過木橋，但每次河水氾濫，橋就總被洪水沖毀。因此，這條河上一直沒有橋。

在一個寒冷的傍晚，茂作與巳之吉在歸途中遇到了猛烈的暴風雪。他們來到了渡口，卻發現船夫已經把小船拉上了岸，人也離開了河邊，不知到那裡避風雪去了。幸好渡口旁有間船夫搭的臨時小屋，兩人急忙躲了進去。能在如此惡劣的天氣下找到個擋風避雪的地方，也算夠幸運的了。

小屋裡沒有火盆，無法生火取暖。陋室除了兩張榻榻米和一個門之外，連窗戶也沒有。茂作與巳之吉把門緊緊閉死後，便披上蓑衣，躺到榻榻米上休息。起初，還不覺得有多冷，他們心想暴風雪也許很快就會過去。